

---

# 悪魔と神が奏でた歌

流創焉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

悪魔と神が奏でた歌

### 【Nコード】

N4217D

### 【作者名】

流創焉

### 【あらすじ】

日本の高校生、緋弓頼焰治ひくろいえんじはやる気と言つものが全くなかった。何時ものように学校をサボり、家の中で寝ていると……

## ブローグ

静かに佇む一人の青年がいた。

その身を真紅のコートで覆い、手元にある本に視線を向けている。その青年の周りには数人の男がいて、その全ての人間が各々の得物を構えて、青年を取り囲んでいる。

対して青年は、全くと言って良いほど無防備だ。更に視線は下を向いているので、状況は圧倒的に不利。

そんな一方的な状況だと言うのに、表情だけを見ると不利なのは周りを取り囲んでいる男達に見えた。皆苦虫を噛み潰した表情をして今か今かと牽制が続けている。

しかし、青年にしてみればどこ吹く風のように視線を本から動かさない。

青年が頁を開いた刹那、しびれを切らしたのか、青年の死角から一人の男が襲いかかる。手に持つ剣を大上段から斜めに振り下ろす。青年は後ろに眼も向けずに一歩前進。剣の間合いを外すと、剣が過ぎ去った空間に入り込み、回転蹴りを脇腹に叩き込む。

斬り込んで来た男を蹴り飛ばし、青年は本を閉じた。

「さっさと来い。日が暮れるぞ」

周りの男達を青年はけしかけるも、誰もしかけようとはしない。全方位に視線を巡らし、誰も反応していない事を悟ると、小さく

嘆息した。刹那、

「准将！」

青年の瞳が走ってくる男を捉えた。規則正しい呼吸で小走りに此方に向かってくる。

「ライハード・クールバウト准将」

「どうした？ 急用か？」

名指しで ライハードと呼ばれたのは青年だったのだろう。走って来た男に眼を向け、質問する。

「いえ、急用と言うわけではなく、ただ、アイズフェイミ中將が呼んで来いと」

青年は ライハードは小さく舌打ちすると、毒々しげに吐き捨てる。

「何のようだよ。あいつは……」

ライハードは辺りを見回し、言い放つ。

「訓練中止だ。野暮用が出来た」

彼はそれだけ言うと、走り出した。

男が来たよりも速く、ライハードは疾走する。風の如く 否。風よりも速く疾走した。

「……………」

残された男達は数秒沈黙を続けた後、無事ですんだことに安堵の吐息を漏らす。更に、

「畜生、あんな化け物にどうやったら勝てるつつんだよ……」

小さく吐き出したその言葉は、嫉妬と共に、畏怖の念もある。

小さく身体は震え、青白い顔で地面を殴り続けている。

「……………」

後から来た男は、その男の姿を見て、小さく嘆息し、ライハードが走っていった方へと目を向ける。

しかし、眼を向けたその時には、ライハードの姿はもう消えていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4217d/>

---

悪魔と神が奏でた歌

2011年1月27日14時41分発行